

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道教育大学附属札幌中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒002-8075
北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-11
E-mail fuzoku-sap@s.hokkyodai.ac.jp
Website www.hue-fsj.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子177名 女子166名 合計343名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、小中一貫でグローバルマインドの育成を目指しており、学習指導要領に示されている持続発展教育を実施しているが、各教科等の学びを統合したり、有機的に関連付けたりすることを意図的に行っている。そうすることで生徒自身が持続可能な社会の構築に向けての当事者意識をもつものとする。それには、教科等で培った持続発展教育に関する知識・理解等を、総合的な学習の時間や特別活動の時間を利用して行動化することが大切である。教育活動全体で持続発展教育に向かう共通理解を、生徒と教師、保護者、地域・社会に図ることになるからである。必要な教育資源(様々なネットワーク、実践資料等)を獲得し、その意義を共通理解しながら生徒とともに活動に取り組んでいる。

① 生徒会活動におけるユネスコスクール活動

本校は、生徒会活動において、ユネスコスクールの4つの基本分野に基づいた委員会活動を推進している。具体的には、「ユネスコスクール活動認定」として、ユネスコスクールの4つの基本分野に基づいた委員会の活動を表彰し、全校にユネスコスクールの理念および取組について校内放送等を通じて発信している。活動例としては、次のようなものがある。
環境教育に関しては、ペットボトルキャップのリサイクル、給食で使用する牛

乳パックのリサイクル、牛乳パック洗浄の際の節水の取組、リサイクルに関する意識を高めるための CM 作製などを実施した。また、生徒会役員会の世界寺子屋運動への継続的な参加を行っている。

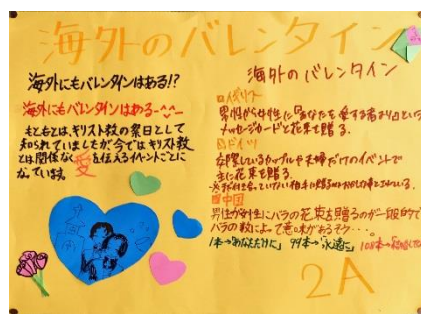
異文化理解教育の推進に関しては、クリスマスやバレンタインなどの日本における行事と海外の同様の行事の文化的の違いを紹介するポスターや、外国の紹介ポスターの作成を行った。

人権、民主主義の理解と促進については、学年の仲間のよさや思いやりのある言動を仲間に伝える掲示物やノートの作成を行った。

地球規模の問題に対する国連システムの理解については、発展途上国の現状を伝える本をはじめとした学校図書館における ESD 特設コーナーの設置を実施した。



【学年の仲間への感謝を伝える掲示物】



【海外の行事を紹介するポスター】

② 社会参画力を育む総合的な学習の時間の実施

当校は、平成27年度より「自己を拓き、協創する生徒」の育成を目指した研究・実践を行っている。「自己を拓き、協創する生徒」の育成の背景には、変化の激しいこれからの社会において、地球的な規模の問題や課題の解決に向けて、英知を結集して取り組むことができる人材の育成を目指している。よって、これからの社会の問題やその在り方について着目したとき、社会で必要とされる資質や能力、持続可能な社会の構築に向けて自らが参画していく力や態度、いわゆる社会に参画する力が求められる。

これらを踏まえ、今年度より、社会参画力を育成する総合的な学習の時間を実施している。生徒は、自らの興味・関心に基づいた課題を設定し、インタビュー活動や他者に発信する探究的な学習を行っている。

第3学年では、ジェンダー・環境・異文化理解等、ユネスコスクールの4つの分野とも関連の深いテーマについて研究する生徒も多い。1年間の学習を終え、生徒は、主体者意識をもち、理想とする社会の実現のために自分たちにできることを具体的な行動で述べてようとしていた。研究の課題に対する結論を自分ごととして捉え、実生活で実践できることを伝えようとしている姿から、社会の一員として一翼を担うことの意識や態度を身に付けていたといえる。

【総合的な学習の時間の発表会における生徒の発表の様子】



③ 旅行的行事における ESD との関わりを意識した学習

第1学年では防災・地域、第2学年では防災、第3学年では平和に対する理解を深められるような旅行的行事を実施している。例えば、第3学年では長崎への修学旅行において、長崎大学教育学部附属中学校との交流や被爆体験者講話など、平和に対する理解を深める学習を継続的に実施している。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユネスコスクール公式ウェブサイト、パンフレット ユネスコスクールと ESD

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校経営方針の今年度の教育の重点において、豊かな人間性の育成を目指す活動の一つとして、新たに校務分掌の中にユネスコスクール担当教師を位置付け、その教師を中心として生徒会活動におけるユネスコスクールの理念に基づいた活動を実施している。

昨年度までは教師主体での活動が多かったことを踏まえ、今年度はユネスコスクール活動を申請制にし、生徒主体の委員会活動を促すことによって、生徒のユネスコスクールの4つの基本分野への意識を高めることをねらった。

また、①で述べたように ESD との関連のある今次研究、旅行的行事を位置付けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度からユネスコスクール活動を生徒（委員会等）からの申請制を採用した。生徒自らがユネスコスクール4つの基本分野に関する取り組みを企画・実践することで、学校全体のユネスコスクールに対する関心を高めることができた。

総合的な学習の時間に関しては、学年授業を基本とした学年体制での授業を行っている。また、年間計画の作成や取組の評価に関しては、全学年の教員で行い、成果と課題を明確にし、次年度に引き継いでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートにおいて、海外の留学生や本校を訪れる研修生との交流に関する質問「海外の留学生や研修生との交流は子どもたちにとって有益であるか」について生徒は96%以上、保護者は99%以上が肯定的な回答（非常にそう思う、そう思う）をしている。また、いずれも昨年度と同項目より肯定的な回答をした割合が高まっていることから、ユネスコスクールに関する取組の成果といえるのではないかと。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

社会参画力を育む総合的な学習の時間の取組について、平成29年度7月に本校の教育研究大会の中で発信した。参会者からの事後アンケートでは、「よりよい社会を形成する『主体者』として社会に参画することが求められている現在、そのために必要とされる『力』を身に付けることはとても大切なことだと思う」などの肯定的な評価を多くいただくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

附属学校としての特質を活かし、北海道教育大学への留学生、研修生を積極的に受け入れ、日本の文化と海外の文化を交流する機会をもっている。10月には、JICA 初等理数科教授法グループを受け入れた。第2学年では、英語の授業において交流会を実施した。それぞれの班で様々な視点から日本の文化、附属中学校の学びを英語で紹介した。これらの交流は過去数年間継続的に行ってきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現段階では、国内外のユネスコスクールとの交流は実施していない。今後、必要に応じて新たなネットワーク形成を検討していく。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒の間にユネスコス쿨の4つの基本分野が浸透している。特に今年度、生徒会活動におけるユネスコス쿨活動を生徒が計画・申請する仕組みを実施したことで、自分たちでユネスコス쿨活動の目的を調べ、これまでの活動を見直したり、委員会の特徴に合った新たな活動を計画したりして取り組んだ。その結果、従来のリサイクル活動など、環境問題に対する意識だけでなく、異文化理解や人権の理解に対する意識の広がりが見られた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

詳細は未定であるが、今年度新たに実施した生徒会活動におけるユネスコス쿨活動を生徒が計画・申請する仕組みについては次年度も継続して実施していく。加えて、活動の承認による全校生徒の意識の向上だけでなく、生徒会の組織の一つである、放送専門局と協力して、全校へのユネスコス쿨への4つの基本分野を周知する活動などを実施することで、自分の所属する委員会以外の活動に対しても意識を高めることができるような取組を実施していきたい。